

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第3回ふじのくに未来のエネルギー推進会議 総合戦略検討作業部会		
事務局 (担当課)		静岡県経済産業部産業革新局エネルギー政策課		
開催日時		令和4年1月12日(水) 午後3時～午後4時		
開催場所		Web会議		
出席者	委員	12人(別紙名簿のとおり)		
	事務局	5人(エネルギー政策課長、班長、主査、その他2)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0名
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議事 次期「ふじのくにエネルギー総合戦略」の最終案と2つの課題(人材育成・県民の理解)について 3 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 議事

(1) 次期「ふじのくにエネルギー総合戦略」の最終案と2つの課題(人材育成と県民の理解)について

資料1 作業部会検討状況

資料2 第2回未来エネ会議意見反映状況

資料3 策定スケジュール

参考資料 エネルギー総合戦略(最終とりまとめ案)(0106時点)

参考資料 御出席者回答様式

参考資料 令和3年度第3回総合戦略検討作業部会開催通知

(2) 意見交換

○河本) 最終取りまとめ案は意見が満遍なく反映されており、非常によくまとまっている。第6章の数値目標(P34)の単位が細かいので、数字を丸めてはどうか。また重点取組と本文の対応が分かりづら。表現を工夫してはどうか。

課題について、社会教育のため、資料室や博物館での展示やWebコンテンツの作成、エネルギー総合窓口の創設など、地域の学校とも連携して広めていくのが良いのではないか

○内山) 最終とりまとめ案の中身は非常に良く網羅されており、次の段階では取組に具体性を持たせた方が良い。

課題について、再エネの導入を図る企業側の立場として、コスト面で導入が厳しいのが現状であるが、こうしたマイナスイメージが一般に伝わるのはよろしくない。一般の方向けには、楽しみながら再エネにチャレンジするような取組を行う方が良い。

○柿沼) 最終とりまとめ案は非常に良くまとめられており、意見が反映されていた。P21のエネルギーの高度利用について、複数の建物で天然ガスコジェネを導入することが記載されているが、一つの建物でも高度利用となるためこの点誤解なきように記載してほしい。

課題について、人材育成の対象を明確にした方が良い。研修方法について、企業相手であれば動画配信を活用する、学生相手であれば教育プ

プログラムの整備やWebベースの教育コンテンツの整備が考えられる。

○天野) 最終とりまとめ案は良く取りまとめて頂いている。河本委員と同じく P20の重点取組とはどこを指しているのか。書き方を工夫してほしい。課題について、教育カリキュラムに環境やエネルギーを組み込むことが大事。ドイツで「森を守る森林官」が子供に人気の職業となっている。国による違いはあるものの、環境を守ることの「大切さ」を伝えていくなど、若い人へのグリーンに対する意識づけが大事。

○細川) 最終とりまとめ案は良く取りまとめて頂いているが、分散型エネルギーについて、幅広く活用することを取り上げていただけるとありがたい。課題について、当社でも環境教育を行っているが、なかなか点が線になっていないので、小さいころから継続的に教育に取り組んでいくべき。環境理解を進めるためには、例えば小学生が木を植え、将来的に植樹による環境価値がJクレジットのように換算できると分かりやすい。

○三枝) 第6章 P33～35のEVの数量、充電スタンドの数字などは30年目標はあるが、25年の数値もあつた方がよい。またEV台数や設置基数の目標達成は、正直大変ではないか。充電スポットの増加や公共施設への太陽光発電設備の増加状況などが県民に見えるようになると実感がわくと思う。一方で、防災を含めた街づくりの観点からもエネルギーを考える必要がある。課題について、県民への啓蒙に向けて「見える化」がポイントとなると思うので、官民協力して取り組んだ方がよい。

○米原) 最終とりまとめ案は意見が反映されており、よくまとめて頂いている。EV関連について、トヨタのEV参入や販売店への充電器導入を進めるとの報道もあり、流れは変わりつつあると感じている。課題について、ニチコンはディーラーと環境フェアに共同参画しており、こうしたセミナーやイベント等を通じた啓蒙活動を行うのは良い。また、啓蒙の媒体として、Youtubeの活用も検討してはどうか。

○袖岡) とりまとめは良くまとまっている。課題について、人材育成のキーワード「スティーム (STEAM) 教育」として教科横断的に実践的に「課題設定→解決」する教育手法があるが、静岡でも「静岡STEAM教育支援センター」がありこうした団体も活用しつつ、実践的な教育に取り組んではどうか。また県民理解について、カーボンニュートラルが身近な課題であることを理解してもらうための

情報発信が良いのではないか。

○佐野) 最終とりまとめ案はこの短期間でうまく取りまとめていただいている。課題について、環境教育をうまくカリキュラムに取り入れ、時間をかけて実践することが大事。例えば廃棄物問題は小学校の授業の中で織り込まれた結果、現状で周知の問題として一般化している。エネルギーについても同様なことが必要ではないか。

○太田良) 大筋良くまとめて頂いている。細かい指摘は事務局にメール済。課題について、人材育成（高等教育）の面では、地域住民を対象に地域の連携講座として県内大学が連携してやってもらえないか。県民理解（初等教育）の面では、カーボンフットプリントのように「見える化」が大事である。生活の中で「環境にやさしい」モノを選択できる状態にしたらどうか「ふじのくにのCOOLチャレンジ」の延長のイメージとなるものが将来的に提示できるとよい。

○辻) 風力の意見が反映されなかったのは残念。課題について、小中学校から市に来る問い合わせで総合学習のネタの要望が多く、大学生からは卒論のテーマに関するヒアリング要望もあり、それぞれ対応してりるほか、大学生をインターンシップとして受け入れている。また、不定期でエネルギーに関する出前講座も行っている。こうした状況を踏まえ、環境・エネルギーに興味を持つ方々に対する提供コンテンツが県で用意できるとよい。

(3) その他自由意見

○福原) 継続的に地道に着実に正しい情報発信をしていくべき。2011年の震災後、福島県内で再エネに取り組むという方向性が出されたときに、新幹線駅の構内に展示ブースを設け（ダム発電量、自転車の発電量）、これがにぎわっていた。8年後の現在も置いているが、メンテが行きわたっておらず、まるで再エネブームが去った印象を持ってしまう（継続が大事ということ）。

○内山) 手に触れられるものはすごく大事。我々も講座等で取り組んでいるが、取組が単発である。そうではなく体系的に再エネの知識が体験できるところが必要。再生可能エネルギーは不安定なもののため、ストレージ(蓄電)も重要とで、これをきちんと認識したほうが良い。

以 上